第 34 回スポーツ祭典
第 58 回全国卓球選手権大会
一般の部 大会要項(裏面全国大会規定必読)

1. 主　　催　新日本スポーツ連盟全国卓球協議会
2. 主　　管　新日本スポーツ連盟岡山卓球協議会
3. 後　　援（予定）岡山県・岡山県教育委員会・岡山市・岡山市教育委員会
4. 大会期日　２０２２年１２月１７日（土）・１８日（日）
5. 開催会場　岡山県総合グラウンド体育館・ジップアリーナ岡山（メインアリーナ）
   〒700-0012 岡山県岡山市北区いずみ町 2-1-3 岡山県総合グランド内
   TEL(086)253-3944　FAX(086)253-8900
6. 競技日程　１２月１７日(土) 団体戦(男子/女子 一般)
   ＊８時００分開館･受付　＊９時００分開会式
   ＊９時３０分競技開始　＊２０時競技終了予定
   １２月１８日(日) 個人戦(男子/女子 一般)
   ＊８時００分開館･受付　＊９時開会式（注意事項の説明のみ）
   ＊９時１５分競技開始　＊１７時競技終了予定
7. 実施種目　【団体戦】

男子･女子 一般団体戦（1 ダブルス３シングルス＋ビクトリーマッチ） メンバー登録は４～８名とし、試合は４～６名で行う。

【個人戦】

男子･女子一般：年齢制限なし

8. 競技規則　１）現行の日本卓球ルールに準ずる（但しタイムアウト制は採用しない）
   ２）予選リーグの順位決定はすべての対戦の勝敗、マッチ得失率(団体戦のみ)ゲーム得失率、ポイント得失率の順で決定する。決定できない場合は抽選で決定する。
9. 競技方法　１）ダブルスは１１ポイント３ゲームズマッチ２ゲーム先取とし、シングルスは１１ポイント５ゲームズマッチ３ゲーム先取制で行う。
   ２）団体戦は１ダブルス３シングルスの４マッチとし、３マッチ先取を勝ちとする。２対２の同点になった場合のみ**最大８名の登録選手の中から代表を選び**ビクトリーマッチを１ゲームマッチで行い勝敗を決する。
   ビクトリーマッチは登録選手８名の中から誰が出場してもよいが４番のシングルスに出場した選手は出場できない。
   ダブルスに出場した選手は２番、３番のシングルスに出場できない、同じ選手がシングルスに２度出場することはできないがビクトリーマッチには出場できる。
   ３）団体戦、個人戦とも、ジュース（１０－１０）になったときから双方が１本ずつサービスを行い、２点差をつけるか先に１３ポイントを得た選手がそのゲームの勝者となる。
   ４）団体戦、個人戦とも予選リーグ後１位による決勝トーナメントを行う。
10. 出場資格　１）新日本スポーツ連盟全国卓球協議会及び都道府県卓球協議会が推薦するチーム及び選手。
   ２）２０２１年度第５７回全国卓球選手権大会（山形県・山形県総合スポーツ

センター総合体育館）において一般団体戦で男女ともベスト４のチーム、個人戦男女ベスト８以上の選手は本大会に推薦される（＝全国推薦）。全国推薦のチーム、個人は出身協議会の方針を遵守。

３）各都道府県予選通過者。

４）一般と年代別の両方の大会に出場することは妨げない。

５）準決勝までは、団体戦は相互審判、個人戦は敗者審判とし、これを了承されたチーム及び選手。

11.試　合　球　　ニッタク（Nittaku）プラ３スター プレミアム クリーンとする。

12.表　　彰　　１）団体戦は３位までとする。（３位決定戦は行わない）

２）個人戦はベスト８とする。

13.参　加　費　　１）団体戦１チーム　加盟 17,000 円・非加盟及び加盟非加盟混成 22,000 円

２）個人戦１人　　加盟 4,000 円・非加盟 5,000 円

＊参加費にはスポーツ傷害保険料を含む。

14.申 込 方 法　　１）チーム・選手へ

卓球協議会のある都道府県からエントリーするチーム・選手は、所定の申

申込書・参加費の送付先

宛　先　　**〒〇〇〇-〇〇〇〇**
〇〇県〇〇市〇〇〇
新日本スポーツ連盟〇〇卓球協議会
第 58 回全国卓球選手権大会（一般の部）宛

添付資料　　申込書

振込先　　**口座番号　〇〇〇〇〇-〇-〇〇〇〇〇**
口座名義　新日本スポーツ連盟〇〇卓球協議会

（通信欄に都道府県名、チーム名、大会名、を忘れずに記入のこと）

締切日　　申込書提出：202〇年〇月〇日（〇）**消印有効**

（※赤太字箇所を各協議会にて設定すること）

15.問 合 せ 先　　新日本スポーツ連盟全国卓球協議会

TEL :03-5834-8734　FAX :03-5834-8723　E-mail：zenkoku@stta.jp

16.組　合　せ　　過去の大会実績をふまえ、主催者側で決定する。

17.諸　注　意　　１）団体戦の男女混成チームは認めない。

２）団体のメンバーの変更は、締切日以降、特別な事情がない限り認めない。メンバーは４名から最大８名まで登録できる。予選通過し申し込みの段階で２名は追加登録できるが、それ以後は追加できない。また大会当日は、不慮の重大な事態がない限り変更は一切できない。メンバー確保が厳しい場合は、最初から８名を厳選して登録することを推奨する。

※ただし９名以上は不可。

３）ゼッケンは縦１８cm･横２５cm 程度の大きさで、氏名、エントリーと同一のチーム名を記入し、各自で用意する。なお、団体戦と個人戦に出場し、エントリークラブ名が異なる場合は、それぞれのゼッケンを用意する。ゼッケンは、大会本部で販売しますが試合に入る前に準備すること。

団体戦のユニフォームはできる限り揃える。対戦同士が同じユニフォームになっても着替えの必要はない。

４）締切日以降のキャンセルの場合、参加費は返却しない。

５）主催者都合以外の大会中止の場合、参加費は返却しない。

６）裏面「第５８回全国大会規定」とともに

「別紙 新型コロナウイルス感染症対策について」もよく読んでおく。

全国卓球協議会のホームページ　　http://www.stta.jp

新日本スポーツ連盟全国卓球協議会
全国大会規定 2022年度

はじめに

全国大会の予選エントリーは、近年 40 都道府県を超えるほどになり、2009 年からは、一般の部と年代別の部との分離開催によりさらに発展のスピードがましてきている。しかし従来の規定が対応しきれなくなり多くの矛盾点も生まれてきた。

「スポーツきみが主人公」の合言葉に、「フェアプレーの精神」でルールを遵守する中で競技力と人格を高め、全国の卓球愛好者の目標となる大会のさらなる発展のために、また、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない現在、安全な全国大会を開催するために新たな規定を加えた。

A.全国大会出場の参加資格について

1.前年大会の成績による推薦出場
- 1) 一般団体　　ベスト 4
- 2) 年代別団体　　ベスト 4
- 3) 個人一般　　ベスト 8
- 4) 個人年代別　　ベスト4

2.各都道府県予選会通過チーム及び個人

3.各地域協議会が推薦したチーム及び個人

B.大会形式について(予選会・本大会共通事項)

1.一般・年代別団体戦、一般・年代別個人戦共通事項

1)1ゲーム11本の5ゲームスマッチ(一般の部のダブルスは3ゲームスマッチ、年代別の部のダブルスは5ゲームスマッチ)の予選リーグ後、1位通過チーム及び選手による決勝トーナメント戦とする。

2)ジュース:10－10になったときから双方が 1 本ずつサービスを行い 2 点差をつけるか先に 13 ポイントを得た選手がそのゲームの勝者となる。

3)条件を満たせば一般大会と年代別大会の両方に参加できる。

2. 団体戦

1)一般の部

1ダブルス3シングルとする。(1 番ダブルス 2 番シングルス 3 番シングルス4番シングルス)

2対2となった場合は最大8人の登録選手の中から代表選手を選びビクトリーマッチを1セットマッチで行い勝敗を決する。1 番のダブルスに出場した選手は 2 番 3 番のシングルスに出場できない、シングルスに 2 度出場することはできない。4番のシングルスに出場した選手はビクトリーマッチに出場することはできない。

ビクトリーマッチの代表選手は2対2になった時点で決定する。

2)年代別の部

1 ダブルス 2 シングルスとする(1 番ダブルス 2 番シングルス 3 番シングルス)

1 番のダブルスに出場した選手は 2 番のシングルスに出場できない。1 番のダブルスは5ゲームスマッチとする。

3. 個人戦

1)共通事項に準ずる。

C.予選会について

1. 共通事項

1)出場できる都道府県予選は1ヶ所とする。

2. 卓球協議会のある都道府県で開催される場合

1) 団体戦

① 加盟登録チームは登録した都道府県の予選に出場する。

② 非加盟のみのチームおよび、加盟員と非加盟員との混成チームは、当該都道府県に在住・在勤・在学の選手で半数以上のメンバーで構成され、その都道府県の予選に出場する。

③ 他の県の選手とチームを編成することが出来る。その場合、卓球協議会のある都道府県の選手とも編成できるが、他の県の選手がチームの半数以下であること。

④ 団体戦の年代別に出場の場合は、その該当する年代のクラスに出場する。ただし、年代が混合する場合は最年少者の年代のクラスに出場しなければならない。

2)個人戦

① 加盟登録者は登録した都道府県の予選に出場する。

② 非加盟者は在住・在勤・在学の都道府県に出場する。

3. 卓球協議会のない都道府県で開催される団体戦の場合

1）団体戦

①予選会を行う当該県に在住・在勤・在学の選手を必ず一人はチームに加える。

②本大会と大会形式が異なる場合、選考基準を明確にしておく。

2）個人戦

①本大会と大会形式が異なる場合、選考基準を明確にしておく。

D.本大会について

1.団体戦

1）共通事項

予選会に出場した選手は、本大会出場の他チームの追加登録選手になることは できない。
ただし、同一クラブで複数チーム参加の場合は除く。また、申込締切日以後のメンバー変更は特別な事情のない限り認めない。

2）審判について

相互審判とする。審判は双方のチームから同数出すこととし判定が食い違った場合はスポーツマンシップにのっとり紳士的に決定する。決定できない場合の最終決定権は審判長に帰属する。

3）オーダーミスについて

試合開始前、オーダー交換時にミスに気が付いた場合はオーダーを提出しなおすことができる。試合開始後に気が付いた場合は該当対戦のみゲーム数0－3の敗戦としポイントは各ゲーム0－11のポイントとする。（ビクトリーマッチは0－1の0－11）
対戦が終了し確認のサインがされた対戦成績は確定する。

4）一般の部

予選会に出場した選手を半数以上必ず登録すること。
登録選手は8名までとする。ただし、他の都道府県の予選に出場した選手を追加することはできない。

5）年代別

予選会に出場した選手を半数以上必ず登録すること。
登録選手は5名までとする。また、他の都道府県の予選に出場した選手を追加することはできない。

2.個人戦

卓球協議会のある県から参加する選手は、その地域で開催された予選会を通過すること。卓球協議会のない県から参加する選手は、その地域で開催された予選会を通過するか、予選会担当県の推薦を受けたその地域在住、在勤、在学の者でなければならない。

E.規定違反について

1.大会前に違反が判明した場合、チーム及び選手は本大会に出場できない

2.大会の予選リーグ中に判明の場合、予選リーグ中はオープン試合とし、決勝トーナメント中に判明した場合、その試合は中止する。大会終了後に判明した場合は、その成績を無効とする。

3.大会終了後も含めて規定違反が判明した場合、登録チーム全員および個人は次大会には出場できない。

F.ランキング及び次大会シード順について

1.ランキング及び次大会シード順は、当該大会役員で構成されたメンバーで決定する。

2.ランキングは全国大会での成績順とし、一般団体はベスト16・年代別団体はベスト8・
一般個人戦はベスト16・年代別個人戦はベスト 8 までとする。

3.上記2.を基本に次大会のシード順とする。第 1～4シードは同一都道府県の対戦を考慮しない。第5～8シードは同一チームの対戦を配慮する。第9～16シードは同一都道府県の対戦を配慮する。不参加があった場合は、順位を繰り上げとする。

4.年代変更によるシード順は、それぞれの前回年代シードを上位とする。
（例：Aで優勝し次大会Bに出場の場合、ランキングは2位となる。）

5.過去の全国大会での成績は、2大会前までを考慮する。

6.全国卓球協議会の推薦チーム及び選手のシード順等は上記1.で決定する。

G.その他

1.出場した選手は、エントリーしたチーム名の入ったゼッケンを着用すること。

2.団体戦のユニフォームは揃えることが望ましいが、それを参加資格の条件とはしない。

3.ユニフォーム等の基準は日本卓球協会のルールに準ずるがそのマーク入りを参加資格とはしない。

2010 年 4 月 1 日規定
2014 年 10 月 18 日一部改定
2015 年 2 月 28 日一部改定
2018 年 6 月 10 日一部改定
2019 年 2 月 22 日一部改定
2022 年 3 月 14 日一部改訂提案
2022 年 4 月18日一部追記